

消防における応急手当普及等の現状

V 応急手当関係

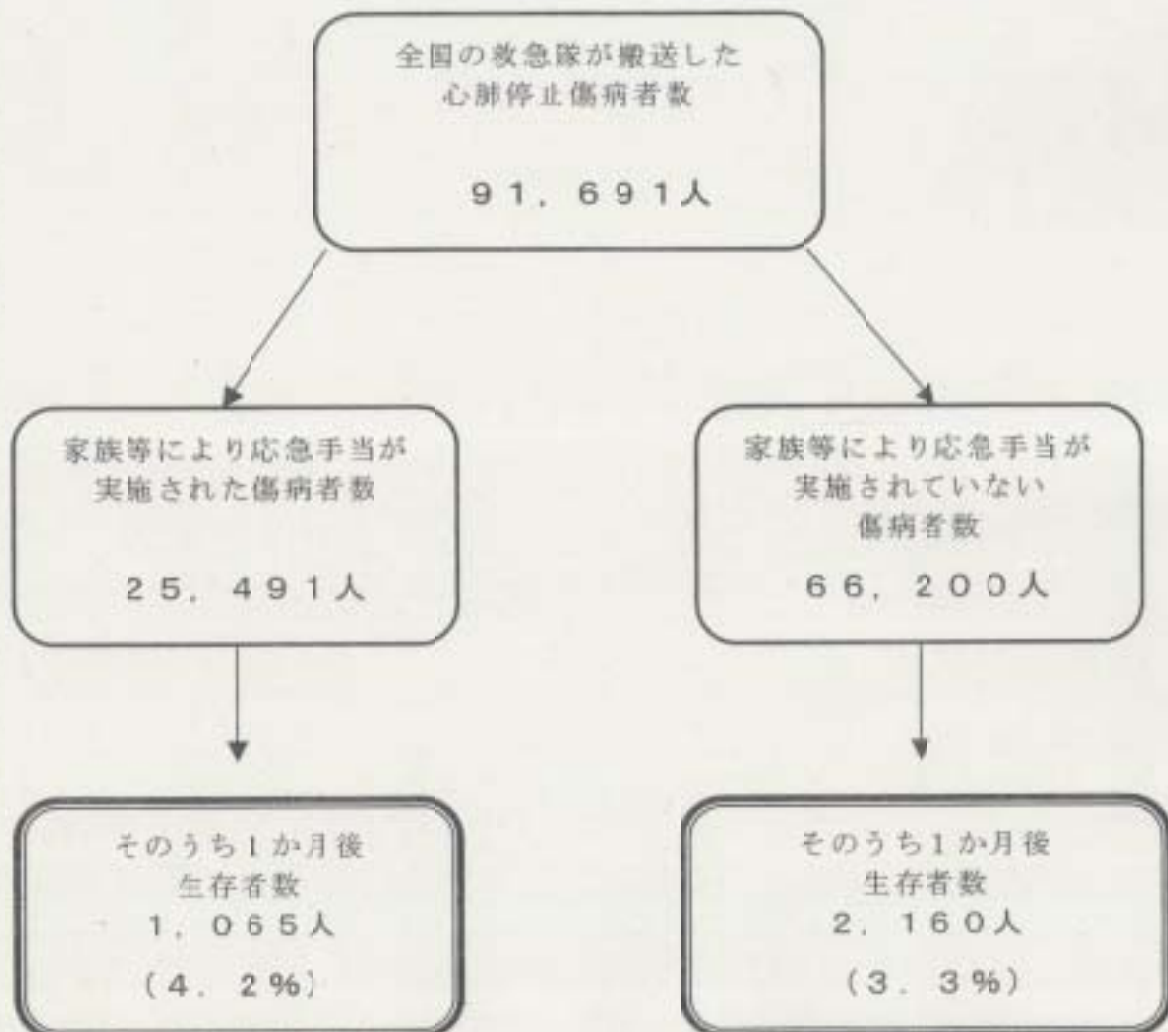
救急隊が到着するまでの全国平均時間は6.3分であり、この間に救急現場に居合わせた人により応急手当が実施されることは、救命効果の向上につながります。

下図は、平成14年中における全国の救急隊が搬送した全ての心肺停止傷病者について、救急隊の到着時に家族等により応急手当が実施されていた場合と実施されていない場合とで、1ヶ月後の生存者の割合を比較対比したものです。

これを見ると、家族等により応急手当が実施された場合の方が、0.9ポイント(約1.3倍)救命効果が高いことが認められます。

119番通報を受けてから救急隊が現場に到着するまでの全国平均時間は6.3分であり、この間に救急現場に居合わせた人により応急手当が実施されることは、救命効果の向上につながっています。

応急手当の救命効果 (平成14年)



消防庁では国民の救命効果の向上を図るため、住民に対する応急手当の普及啓発活動を推進しており、受講者数は年々増加しています。

平成14年中に全国の消防機関が行った応急手当普及講習は、受講人数が100万人を越え、国民の約123人に1人が受講したこととなります。

消防庁では「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」に基づき、住民に対する応急手当普及講習として普通救命講習（3時間コース）と上級救命講習（8時間コース）を推進しています。

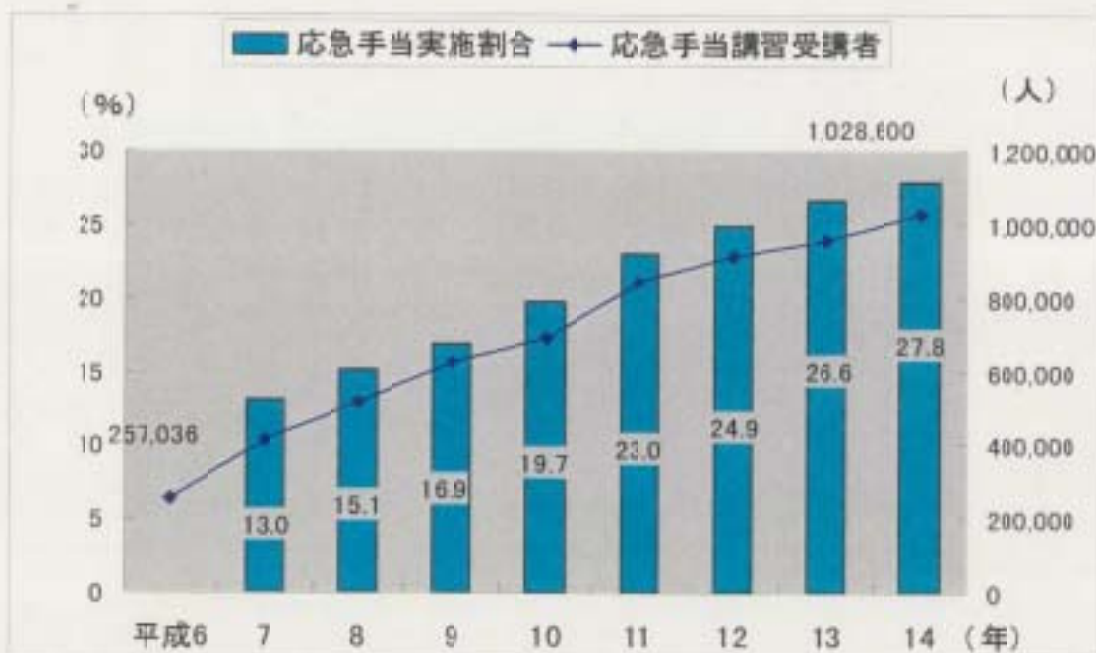
応急手当普及講習受講人員は年々増加しており、平成14年中の受講者数は前年と比べて約7.7%増加し1,028,600人と100万人を超えました。

これは平成14年中には国民の約123人に1人が消防機関による応急手当普及講習を受講したこととなります。

応急手当普及講習受講者数の増加に伴い、心肺停止傷病者に対する応急手当の実施件数は年々増加し、救命効果の向上に貢献しています。

（第7図、附属資料5参照）

第7図 応急手当講習受講者数と
心肺停止傷病者に対する応急手当実施割合の推移



※ 応急手当実施割合については、平成7年からの調査項目。

附属資料5 住民に対する応急手当普及講習修了者数の推移

(単位：人)

区分 年中	住民に対する応急手当普及講習修了者数		
	普通救命講習	上級救命講習	小 計
平成7年	395,045	19,212	414,257
平成8年	491,300	25,758	517,058
平成9年	589,798	33,670	623,468
平成10年	655,700	34,807	690,507
平成11年	797,979	41,135	839,114
平成12年	861,699	48,393	910,092
平成13年	901,039	53,795	954,834
平成14年	970,202	58,398	1,028,600
対前年 増加率	7.7%	8.6%	7.7%
平成14年中応急手当普及講習修了者数 (A)			1,028,600
総人口 (B) (平成12年国勢調査)			126,925,843
(B/A)			123.4